

平成28年度 山形県立農林大学校評価書

【運営方針2】実践教育の充実

【基本方向】積極性や企画力、技術力、経営管理能力、コミュニケーション能力等、経営者としての資質の向上		【評価基準】 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分			
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
(1)少人数制や多様な進路に沿った濃密な学習支援	進路決定率:100%	① 少人数制による濃密な学習支援（継続） 各学科とも少人数制となっており、専攻科目の講義・実習においては学生の習熟度に応じた濃密指導を行い、基礎から実践的な知識・技術の習得を図る。 ② 志望進路に沿った学習支援（継続） 学生の志望進路（就農、就職、進学）に応じた科目選択を設定し、志望進路実現に向けた取組みをきめ細かく支援する。	・各学科3～15名の少人数制で、担任の下「師弟同行」の精神で講義・実習を実施した。 ・就農を目指す学生は「就農講座Ⅰ・Ⅱ」、就職を目指す学生は「ビジネス基礎講座Ⅰ・Ⅱ」、大学編入を目指す学生は「英語Ⅰ・Ⅱ」、「応用英語Ⅰ・Ⅱ」とそれぞれの進路に合わせ科目の選択が可能となっている。また、就職、編入の試験に応じ、小論文や面接についても随時指導している。	B (進路決定率100%)	・今後とも少人数体制による講義、実習を維持し、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る。 ・次年度は林業経営学科が2学年となり、学生数が増加する。このため、実習時の安全確保や多忙期で人員が必要な場合に備え、運営体制づくりに取り組む。 ・平成28年度卒業生の進路状況 就農 20名（即就農11名、農業法人就職4名、研修後就農5名） 就職 26名（公務員等3名、農協3名、農業・食品関連17名、一般企業2名） 進学 3名（4年制大学3年次編入3名） ・次年度は、「就農講座Ⅰ・Ⅱ」では複数の講師が連携して、基礎から農業経営までの知識習得を図る。関係機関と連携し、農業法人の求人情報を収集する。 ・「ビジネス基礎講座Ⅰ・Ⅱ」では、採用試験の内容に合わせて、SPIや小論文、面接等の指導を行う。 ・「英語Ⅰ・Ⅱ」では、各大学の編入試験科目に対応した指導を実施する。次年度は、「TOEIC」の教材活用と受験により、英語力の向上を図る。 ・学生が的確な進路決定ができるよう、農大卒業生（就農者・法人就職者、就職者、進学者）に講師を迎え、自らの体験談を話してもらい進路ガイダンスを開催する。
(2)経営感覚やコミュニケーション能力の醸成	実施回数:20回	① 販売実習による経営能力・コミュニケーション能力の向上（継続） 農林業経営者としての企画力を養成するため、定期的に「農大市場」を開催するほか、関係機関が企画するイベントにも積極的に出店する。 また、山形県アンテナショップや首都圏の果実専門店、卸売市場等での販売実習や調査を実施する。	・今年度は「農大市場」を5回開催したほか、kitokitoマルシェ、新庄味覚まつり、園芸試験場参観デー、山形空港まつり、山形県農林水産祭、ゆめりあ産直フェア等へ出店した。各学科の主な販売実習・市場調査は以下のとおり。 ・（稲作経営学科）イベント出店による卒業成果品の有機米等の試食アンケート、都内の米小売店での県産米の流通動向調査 ・（果樹経営学科）イベント出店によるおうとう、西洋なし、ぶどう等卒業成果品の求評、首都圏の果実専門店訪問による農大産果実の販売実習、市場・小売店での販売動向調査 ・（野菜経営学科）首都圏の量販店を訪問しての流通動向調査、各県アンテナショップにおける農産物・農産加工品の生産・販売の動向調査 ・（花き経営学科）首都圏の市場、仲卸、生花店における流通動向の調査、県産花きの評価 ・（畜産経営学科）大規模肉用牛一貫経営と酪農経営の視察研修 ・（農産加工経営学科）多数のイベント出店による販売実習、山形県アンテナショップにおける販売実習	B (実施内容等農大市場(5回) kitokitoマルシェ(6回)園芸試験場参観デー、山形空港まつり、新庄味覚まつり、山形県農林水産祭、宮城農業大学校祭、ゆめりあ産直フェア、各学科が独自で実施した首都圏等での販売実習(5回) 合計21回)	・農大市場をはじめとした様々な販売実習は、学生自らが生産した農産物、農産加工品の商品説明し、消費者の声を聞く機会であり、経営能力・コミュニケーション能力の向上につながっている。また、卒業成果品のアンケート調査等を実施し、今後の農畜産物生産や商品改善にも生かしている。 ・首都圏の市場や小売店等を訪問しての流通動向調査は、学生が県産農産物の評価に直接触れる貴重な機会となっており、学習意欲の喚起につながっている。また、調査実施時期が、1年生は卒業論文の計画段階、2年生はとりまとめ段階であるため、卒業論文の試験区設定や考察の参考となっている。 ・次年度は、各学科の販売実習や調査が、より実施しやすい日程になるよう教育計画を編成する。
(3)成果発表会等への積極的参加	全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会等での上位入賞	① 全国規模の発表会等への参加 日ごろの学習成果の発表の場として、東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞論文での上位入賞を目指す。 また、技能五輪全国大会（競技職種：フラワー装飾）への出場を目指し、全国レベルの技能等に触れることで、今後の学習意欲の喚起を図る。	・卒業論文の発表会が12月に終了し、東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会に代表学生3名が出場した。また、意見発表の部には、10月の校内発表会を経て2名の学生が出場した。 ・ヤンマー学生懸賞論文・作文(作文の部)には全学生が応募した。 ・今年度、山形県で開催された技能五輪全国大会山形大会（競技職種：フラワー装飾）に、花き経営学科の学生が本県代表として出場した。	B (東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞論文・作文(作文の部)での上位入賞)	・東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会・意見発表会で、プロジェクト発表の部において最優秀賞と優秀賞、意見発表の部において最優秀賞に入賞して、全国大会へ出場し、プロジェクト発表の部で農林水産省経営局長賞(第2位)を受賞した。 ・ヤンマー学生懸賞論文・作文(作文の部)では、2名の学生が銅賞を受賞した。次年度は作文の部に加え、論文の部にも積極的に応募する。 ・技能五輪全国大会山形大会（競技職種：フラワー装飾）に出場した、花き経営学科の学生は日ごろの学習の成果を発表した。 ・卒業論文の実施にあたっては、関係機関等と連携し、助言を受けながら取り組むものとする。

自己評価	評価
<p>・3者面談等により速やかに進路を決定し、指導職員会議や担任会議で担任と教務担当が情報を共有しながら進路指導を実施した。また、授業のほかにも、面接や小論文作成、SPI指導やキャリアカウンセリングなど、学生の進路、職種等に応じた指導を行った。</p> <p>・販売実習や流通動向調査は、学生主体で取り組むためコミュニケーション能力の向上につながっている。さらに、卒論との関連性等、事前に学習することで学習意欲の喚起が期待できる。</p> <p>・成果発表会等へは積極的に参加し、きめ細やかな指導を行った結果、東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会で上位入賞を果たして全国大会へ出場し、プロジェクト発表の部で農林水産省経営局長賞（第2位）を受賞した。</p>	B

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	評価
<p>・就農すると地域とのつながりが重要になるので、市町村、JAなどの関係機関・団体について学ぶ場を作ってほしい。→就農希望者が受講する「就農講座Ⅰ・Ⅱ」を使って、関係機関や団体の役割等について学べるよう内容を検討したい。</p> <p>・山形県農林水産技術会議ではスマート農業の実現に向けて議論しているが、農林大学校でも学習に取り組むべきである。→これまで当校では、スマート農業をICT技術の中で学習してきたが、今後はスマート農業の研究開発を担当する試験研究機関等と連携しながら内容を充実していきたい。</p>	B